

2 不登校

中央教育審議会初等中等教育分科会（第66回）資料4（その2）不登校の児童生徒への支援について

(1) 不登校の基本認識について

不登校児童生徒への支援に当たっては、今後とも平成15年5月16日付文部科学省初等中等教育局長通知「不登校への対応の在り方について」に基づき、施策の充実を図っていく必要がある。

特に、1. 不登校については、特定の子どもに特有の問題があることによって、起こることではなく、どの子どもにも起こりうることとしてとらえ、当事者への理解を深める必要があること、2. 不登校という状況が継続すること自体は、本人の進路や社会的自立のために望ましいことではないこと、3. 不登校は、その要因・背景が多様であることから、教育上の課題としてのみとらえて対応することが困難な場合があるが、一方で、児童生徒に対して教育が果たすべき役割が大きいことに着目し、学校や教育委員会関係者等が一層充実した指導や家庭への働きかけ等を行うこと必要があること、について、不登校に対応する上で持つべき基本的な姿勢とし認識しておくことが重要である。

(1)不登校の未然防止

①不登校にならない魅力ある学校づくり

不登校の未然防止のためには、魅力ある学校づくりを進め、子供一人一人の自己肯定感を高めることが大切。

- ・学ぶ意欲を育て、基礎的・基本的な学食の定着を図る。
- ・発達段階に応じた配慮をする。
- ・いじめや体罰は無いという、子供が安心して通うことができる雰囲気をつくる。

②心のサインを見落とさない

日頃から深めている児童・生徒理解を生かし、子供一人一人の学校生活全般の様子、心身の健康状態、不安・戸惑い・悩み等の把握に努めます。

③欠席者には温かく、かつ敏感に対応

授業日連続2日～4日欠席

電話で子供の様子を聞く、今後の見通しの確認と学校の予定を連絡。

授業日連続5日以上欠席

管理職に報告。家庭訪問を実施し状況を把握する。

家庭訪問の状況により

本人の状態、保護者の考え方・協力体制、家庭事情などを総合的に考え今後欠席継続が予想されるか

⇒必要に応じて、学級担任は関係各所(※)に連絡、ケース会議を検討。

※学年主任、養護教諭、校長、副校長、生活指導主幹、不登校対策担当、スクールカウンセラー、子供と家庭の支援員

(2)不登校の初期対応・・・不登校対策は初期対応が重要

- ①休みがちな子供に気付いたら、学年で相談するなど組織的に対応することが必要。
- ②不登校の原因探しにとらわれることなく、学校と家庭が連携していくことで、子供の変容が期待できる。
- ③適切な投稿刺激を与えることは効果的です。しかし、強い拒否反応がみられるときは、引きこもってしまう場合も考えられる。

(3)不登校解決のために

①段階的対応例

	本人の様子	学級担任・学校の対応	保護者との関わり
登校し ぶ り 期	<ul style="list-style-type: none"> 起床時間が遅くなる いじめ、先生が怖いと訴える 保健室に頻繁に行く 家族が不安感をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○子供の変化に気付く ・欠席状況に注意する ・養護教諭から情報を得る ・定期的に家庭訪問をする ・保護者の話し相手、支えとなる ・頭痛や腹痛などの身体症状が長引く際は、医療機関をすすめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムについて ・攻撃的な言動は不安が高まっているサインととらえること ・強迫的な症状が長引く際は、医療機関に相談すること
不登校 期	<ul style="list-style-type: none"> ・登校への葛藤と休むことへの罪悪感が混在 ・登校刺激への反抗、自己防衛のために攻撃的になる 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内体制を確立する ・保護者の思いを受け止め、信頼関係を築く ・保護者や本人の意向を考慮して家庭訪問をする ・本人の興味を通して関わりをもつ ・学習や学校生活への適応のための情報を提供する ・本人の意向を確かめ、友達に遊びに行ってもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムについて ・不安や攻撃が治まらない場合、医療機関や相談機関に、保護者だけでも相談すること ・子供の興味・関心があることに誘ってみること ・子供の思いを把握すること
回復 期	<ul style="list-style-type: none"> ・家族間で交流が始まり、自己主張する ・買い物など、外出できる ・強い緊張感や不安をもって生活している 	<ul style="list-style-type: none"> ○登校できる環境をつくる ・補習などを行い、学習の遅れを取り戻す ・役割分担し支援する 学級担任→本人 養護教諭→保護者 ・気が合う友達と関わる機会をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・再登校できる条件を考えること ・再登校の後押しとなるような子供の思いや様子を学級担任に伝えていただくこと
再登校 準備 期	<ul style="list-style-type: none"> ・登校しても緊張感や不安感をもっている ・自分の将来について考えることができる ・自分で決めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級とつなげる ・学級の様子をさりげなく伝える ・別室登校や放課後登校などをすすめてみる ・再登校に向け、校内で受け入れ態勢を整えるなど計画を立てる ・補習を行い、自信をもたせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・再登校の兆しを見つけること ・学級担任と連携し、安心して再登校できる条件を整えること ・本人に目標をもたせること

		・選択肢を自分で決めさせる機会をつくる	
--	--	---------------------	--

② チェックシートを活用した 不登校の子供への基本的対応

不登校児童への基本的対応 チェックシート

- 継続的に家庭訪問を行っている。
- 電話連絡を継続的に行っている。
- 学校、学級からの配布物は必ず届けている。
- いつ、どのような働き掛けをしたか記録をとっている。
- 保護者や本人に関係機関への相談を勧めたり、学校側から関係機関の協力を要請したりしている。
- 本人と話をしたり、学習面でのケアを行ったりしている。
- 保護者との連携を図り、対応している。

③ 不登校の子供への家庭訪問について

家庭訪問のねらい…不登校の子供や保護者に学校の取り組みについて理解を深めてもらい、良き協力者・支援者として、信頼関係を築く

<家庭訪問のポイント>

- ① 教員による家庭訪問…欠席が長期化したときは、根気強く関わりや働きかけを行う必要がある。日々の電話連絡や、定期的な家庭訪問により、本人や保護者に「学校や先生はいつも応援している」という気持ちを伝え続ける。大切なことは電話でなく会って話をすることである。過度な負担にならないよう注意することも大切だが、保護者には以下のことを伝えておくことが大切である。
 - (ア) 休むことに対して避難したり、無理やり登校させようとしたりしないこと。
 - (イ) 気にかかっていることや小さな変化などに気づいたことがあったら、担任にいつでも相談してほしいこと。
 - (ウ) 学校を休んでいる間も夜型にならないよう生活のリズムを大切にすること。
- ② 友達による訪問…学級の友達を訪問させたり遊びに行かせたりする場合は、本人や保護者その負担についてもよく相談する。重要なことは、学級がいつでも迎え入れる準備ができているように日頃から働きかけることである。